

奄美情報処理専門学校 工業課程 システム情報処理科 自己評価表

1. 学校の教育目標

実践的技術教育を通じて、工学的知識・技術の基本を備え新しい"もの"の創造・開発に粘り強く挑戦できる技術者を育成する。
 豊かな教養、技術者としての倫理観を身につけさせ、社会に貢献できる広い視野を持った技術者を育成する。
 産業のグローバル化に伴い、国際社会において自分の考えを表現できる表現力やコミュニケーション力を備えた技術者を育成

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

地域産業の発展に貢献するため、課題探求能力を有し、設定した課題に向かって果敢に挑戦できる技術者を育成する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

適切…4、ほぼ適切…3、
やや不適切…2、不適切…1

該当の数字を入力して下さい

評価項目	講師1	講師2	講師3	講師4	平均
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	3	4	3	3	3
・学校における職業教育の特色は何か	4	3	4	3	4
・社会経済ニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	4	3	4	4
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	3	3	3	3	3
・学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界にニーズに 向けて方向づけられているか	3	3	3	4	3

①課題

学校の理念・目標・育成人材像の見直しを行うが、学科の教育目標や育成人材像がニーズに対応出来ているかが課題。
 DX(デジタルトランスフォーメーション)やAIなどの新技術に対応した教育内容との整合性が課題。

②今後の改善方策

将来に向けて取り組むべき課題や目標を明確にし、社会経済ニーズに対応した教育プログラムや施策を立案する。
 教員の研修体制を強化し、新技術や教育手法への対応力を高める。

③特記事項

地元小中高や市町村が主催するイベントなどに参加し、周知活動を続けていく。

(2) 学校運営

適切…4、ほぼ適切…3、
やや不適切…2、不適切…1

評価項目	講師1	講師2	講師3	講師4	平均
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	2	3	4	3	3
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	2	4	4	4
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	3	3	4	3	3
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	2	3	4	3	3
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	3	4	4
・業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3	3	4	4	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	4	4	4	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	2	2	3	3

①課題

デジタル化による業務効率化が進む一方で、ITスキルの習熟度に個人差があり、サポート体制の不足が課題。

財務等の組織整備に対して、意思決定プロセスの透明性。

人事選考の取り組みを継続的に実施する。

②今後の改善方策

業務デジタル化に関して、今後必要な対応となるので、今は苦しいが全体で取り組んでいく。

関係者からの意見交換やフィードバックを積極的に取り入れる。

③特記事項

内外の情報発信において、SNS等を使用し最新の情報を提供。広報の質を向上。

地域の商工会議所など有識者に必要な知識(就業規則等)についてアドバイスを受ける。

月に1日は全学生遠隔授業の日を設け、遠隔授業操作に順応する。

(3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、
やや不適切…2、不適切…1

評価項目	講師1	講師2	講師3	講師4	平均
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3	4	4	4	4
・教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4	4	3	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3	4	3	4	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	4	4	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3	4	3	4	4
・関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	4	4	4	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	4	3	3	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3	3	3	3	3
・成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	4	4	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	4	4	4	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教育（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	4	3	4
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力など資質向上のための取組が行われているか	4	4	3	4	4
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	4	4	4	4

①課題

教員の研修プログラムや専門知識の向上を図り、教育水準を高める。
IT業界との連携は進みつつあるが、他業種（観光、福祉、農業など）との横断的連携が未開拓。
オンライン授業と対面授業を併用する中で、学習効果や学生のモチベーション管理が課題となる場合がある。

②今後の改善方策

特別授業の内容を定期的に見直し、業界の変化に即応できる柔軟なカリキュラムを整備
教員の専門性向上のため、外部研修等との連携・業界視察など多様な学習機会を確保する

③特記事項

関連分野の企業と連携を開始した特別授業が、7年目を終えることが出来た。
新たに保守インフラ系企業がHW関連の特別授業を開始し、これにより学生の内定先が増加する成果が見られた。
特別授業を通じて、実務的スキルと就職支援の両面で教育効果が現れている。

(4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、
やや不適切…2、不適切…1

評価項目	講師1	講師2	講師3	講師4	平均
・就職率の向上が図られているか	4	4	4	4	4
・資格取得率の向上が図られているか	3	3	3	3	3
・退学率低減が図られているか	3	3	4	3	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	3	3	3	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	4	4	4	4

①課題

令和6年度退学者0名 学習意欲の低下及び社会的不適応(引きこもり等)
学習意欲の低下や社会的孤立の要因として、コミュニケーション機会の不足や自己肯定感の低さが背景にあると考えられる。
卒業後、内定先での活躍にばらつきがあり、職場適応力や実務遂行力が課題となる。

②今後の改善方策

卒業後の定着・活躍を意識し、「職場での振る舞い」や「チームでの働き方」を意識したキャリア教育を強化。
内定先企業と連携し、卒業生の勤務状況や評価をフィードバックとして収集、教育内容に反映。

③特記事項

外国人留学生の受け入れに関しては、日本語学校修了後の適応力と学習意欲を重視し、前向きに検討中。
新たに参入した保守インフラ系企業によるHW関連の特別授業が、実践力強化と内定増加に貢献。
一部学生がバンダー資格(例: Javabronze、MOS)を取得し、学修成果の具体化が進んでいる。

(5) 学生支援

適切…4、ほぼ適切…3、
やや不適切…2、不適切…1

評価項目	講師1	講師2	講師3	講師4	平均
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	4	4	4	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	4	4	4	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	4	4	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	3	3	3	3
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	4	4	4	4
・学生の生活環境への支援は行われているか	3	3	3	3	3
・保護者と適切に連携しているか	3	3	3	3	3
・卒業生への支援体制はあるか	4	4	4	4	4
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	4	4	4	4
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	4	3	3	4

①課題

独自の就職支援体制が整いつつある一方で、それに依存しすぎる学生もあり、自主的なキャリア形成力の育成が課題。学生が抱える悩みが多様化しており、個別性の高い支援ニーズ（例：家庭問題、経済的不安、性格傾向）に対応できる体制の整備が必要。現在も出来る限り学生へサポートしている。
特に、デジタル環境下での対人関係構築が苦手な学生も見られ、社会適応面での不安要素となる。

②今後の改善方策

研修旅行を実施し、採用試験や内定企業への挨拶など行う。就職後や県外で一人暮らしの生活するイメージを意識してもらう卒業生OB・OGの就職体験談など、リアルな意見を聞ける場を整え、在校生の就職活動支援及び社会人としての心構えを整えてもらう。

心理的な支援体制の強化を行い、学生のメンタルヘルスをサポートする。

③特記事項

令和6年度は東京へ研修旅行は実施しました。活動内容は内定先企業訪問や採用試験等の活動等。

※研修に行く人は強制参加ではなく、任意となります。

国の「高等教育の就学支援新制度」や独自の給付奨学金などを軸に、今後も広報活動や認定校に相応しい学生支援を続けてい

(6) 教育環境

適切…4、ほぼ適切…3、
やや不適切…2、不適切…1

評価項目	講師1	講師2	講師3	講師4	平均
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	3	3	3	3
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	3	3	3	3
・防災に対する体制は整備されているか	3	4	3	4	4

①課題

校舎は行政からの借用であり、経年劣化に対するメンテナンス費用が自己負担となることが財政的な

②今後の改善方策

学外実習やインターンシップにおいて、地域企業・自治体施設との連携を視野に入れ調整していく。
授業や校外活動で使用する地域施設・公共施設を有効活用し、コストを抑えつつ実践教育の質を向上させる。
防災に関しては、定期的に検査があり、不備があればその都度修繕している。

③特記事項

県外企業の専門講師を定期的に招き、最新技術の導入や業界動向を学ぶ機会を提供。実務力の強化に寄与している
今後も行政や自治体と連携して、円滑な関係を構築し、教育環境を整えていきたいと考えています。

(7) 学生の受入れ募集

適切…4、ほぼ適切…3、
やや不適切…2、不適切…1

評価項目	講師1	講師2	講師3	講師4	平均
・学生募集活動は、適正に行われているか	4	4	4	4	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	4	4	4	4
・学納金は妥当なものとなっているか	4	4	3	3	4

①課題

少子化の加速により、奄美大島本島内だけでの学生確保には限界がある。
島外からの受け入れを目指すには、学校の魅力や進路実績をより広く発信する体制が必要。

②今後の改善方策

高校訪問やガイダンス参加に加え、オンライン個別相談会や体験授業のデジタル開催を定期的に行い、島外志願者との接点を増やす。

SNS (Instagram・X・YouTube) などを活用し、在校生の声や授業風景、就職実績などを「見える化」する取り組みを強化。

③特記事項

鹿児島県専修学校協会の規定に則り、法令遵守かつ誠実な広報・募集活動を継続中。
教材費・設備費等の物価上昇の影響を受け、学納金の見直しを検討。「適切な金額」と「安心できる支援制度」を両立させる方向で調整中。

(8) 財務

適切…4、ほぼ適切…3、
やや不適切…2、不適切…1

評価項目	講師1	講師2	講師3	講師4	平均
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	3	2	2	3
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	3	2	3	3
・財務について会計監査が適正に行われているか	4	4	4	4	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	4	4	3	4

①課題

物価上昇や施設維持費の増加に伴い、従来の財務構造だけでは持続的な運営が難しくなっている。

②今後の改善方策

雑収入の確保として、関連企業との連携による教育コンテンツ提供・技術支援・講座委託等の新たな教育の質と費用対効果を両立させる観点から、学納金の見直しと、それに対応する奨学金制度の拡充・説明の強化。

③特記事項

財務情報に関しては、HPを通じて適宜公開しており、透明性の高い運営を心がけている。

(9) 法令等の遵守

適切…4、ほぼ適切…3、
やや不適切…2、不適切…1

評価項目	講師1	講師2	講師3	講師4	平均
・法令、専修学校設置基準等の順守と適正な運営がなされているか	4	4	4	4	4
・個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	4	4	4	4	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3	2	3	3	3
・自己評価結果を公開しているか	4	4	4	4	4

①課題

自己評価の実施や改善に向けた取り組みは重要だが、職員の業務負担が大きく、対応が後回しになりやすい。

②今後の改善方策

専任職員の増員。システム化で効率の良い事務処理を行う。本校学校教育に賛同してくれる企業等に協力を得る。

③特記事項

就業規則や校内ガイドラインについては、定期的に見直しを行い、最新法令や社会動向に即した運用を心がけている。
本校ホームページに、学校自己評価報告書、学校関係評価報告書、財務情報を掲載し、情報を公開している。

(10) 社会貢献・地域貢献

適切…4、ほぼ適切…3、
やや不適切…2、不適切…1

評価項目	講師1	講師2	講師3	講師4	平均
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	4	4	4	4
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	4	4	4	4
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	4	4	4	4

①課題

地域貢献活動は非常に良い反響を得ているが、学生・職員双方にとって時間や労力の負担が大きい点が課題。

地域からの協力依頼が増加する中で、人的・時間的リソースの配分をどう行うかも検討が必要。

本来ボランティアとは日本では無償の「奉仕活動」と捉えられがちですが、本来の意味は「自発的な意志による行動」を指します。
自発的な意思を学生に持って貰うのが課題だと感じた。

②今後の改善方策

ボランティア活動を通じて得た経験やスキルを学業やキャリア形成に役立てるように指導していく。

③特記事項

学校独自のボランティア活動は行える事は出来た。(地域近辺の川や大浜海浜公園の清掃等)

令和6年12月には奄美高校主催のマルシェに参加。(参加依頼あり)小学生を対象に、プログラミング教室及び卒制体験を実施。

(11) 国際交流（必要に応じて）

適切…4、ほぼ適切…3、
やや不適切…2、不適切…1

評価項目	講師1	講師2	講師3	講師4	平均
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3	3	2	2	3
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続等が取られているか	3	3	3	3	3
・留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3	3	3	3	3
・学習成果が国内外で評価される取組みを行っているか	2	2	2	2	2

①課題

現在、直接的な留学生の受け入れは行っておらず、日本語学校を卒業した学生のみが対象となっている。

②今後の改善方策

日本語学校卒業生の受け入れをベースとしながら、少人数からの段階的な受け入れに備えた準備を行う。

③特記事項

現在留学生は0名です。万が一に備え、留学生受け入れ態勢を継続する努力を行います。

今後も学習を通じて、社会に貢献出来る人材を育成を目標に続けていく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校独自の給付型奨学金制度は6年目を迎え、企業との連携とともに、学生への金銭的支援策として今後も周知していく。

学納金については、物価高騰や教育資材の価格上昇にもかかわらず令和6年度は値上げを見送るなど、学生家庭への配慮を実践し、現状では財務的な限界に近づいており、将来的な適正な値上げの検討も避けられない状況である。

今後は、学納金の見直しにおいても透明性のある説明など、在校生・保護者・関係者への丁寧な周知と信頼構築が重要となる